

認知症カフェでの居宅訪問活動 (認とも)

一社) 久留米健康くらぶ

〒830-0023 福岡県久留米市中央町35-1

助成事業の概要

毎日ほっとカフェの運営をしながら認知症ご本人や困っている家族を対象に①家族相談会②介護者の集い③認知症ご本人の集いを実施してきました。そして「認知症介護研究・研修仙台センター」の2017年3月の調査研究事業《認知症カフェの活用と認とも》の報告を契機に、当ほっとカフェでの今後の更なる支援活動として、利用者の中で来れない方や週1回以上のサポートが必要な方に居宅訪問活動(認とも)の必要性を痛感。2020年度は貴団体の助成事業を活用させて頂き、認知症カフェの先駆的取組みの京都地区訪問で認知症カフェ運営の更なる深化を目指し、居宅訪問活動(認とも)で先駆的な活動事例3ヶ所の調査研究を行い実践研究として①市民サポーターの育成②当認知症カフェの利用者を選定し、訪問活動の実践研究を行い地域の中で認知症になっても安全安心な地域づくりに寄与する。

事業の成果

昨年4月～5月は、新型コロナでほっとカフェの運営を閉鎖し、4～6月で予定の4か所の訪問もコロナ禍の合間を縫って、何とか訪問活動は実施できましたが、サポーターの研修や訪問活動は昨年12月より今年3月迄に内容を見直して実施してきました。その中でまずは先駆的事例先の訪問でもこの1年は活動を停止の状態でしたが、下記具体的な活動の成果がありました。①利用者のニーズはあるが、訪問サポーターの確保が

難しい②訪問者サポーターのコミュニケーション能力が求められ、傾聴は難しく基本は、慣れた民生委員や資格者経験者との同行が必要③男性の訪問者と女性利用者のマッチングや訪問の調整がうまくいかない④最初の訪問で地域包括支援センターやケアマネが初回のみ同行訪問する方法は良い⑤最初は2名体制が必要だが慣れて継続の為には1名の方がベター⑥ほっとカフェの利用者に1人は、顔なじみの方が行くので抵抗感は薄く、面談は概ねうまくできた⑦特に娘さんが同席したところでは、お母様の今の気持ちや知らない心境も解り、この訪問活動での本人寄添いしつかり傾聴して生の声を聴く事の大切さも垣間見れた。申請時に期待していた成果については、

①自宅訪問で環境や家族を知ること新たな発見や気づきがあった②家族との信頼関係の改善そして介護負担の軽減に訪問の積み重ねが可能③継続する事で地域にはなくてはならない存在となり認知症サポーターの輪の拡がり、認知症になっても安全安心な地域づくりに繋がるものと考えます。

課題として、①当面はコロナ禍で円滑な訪問活動が難しい②利用者のニーズはあるが、サポーターの数やコミュニケーション能力や傾聴等スキルアップが大切③マッチング等事務局の役割の必要を学ぶことができました。

成果の広報、公表

・この度の活動は、3月の一社)久留米健康くらぶの社員及び久留米認知症カフェを広める会に

て広報し、「認とも」活動の重要性と意義を理解して更なる認知症ご本人に寄添い、介護家族の負担軽減に寄与できることを伝えることができました

- ・更にこの内容を、久留米市の窓口：長寿支援課及び福岡県の窓口：高齢者地域包括ケア推進課にも資料を配布して、認知症カフェの活動の意義と認知症ご本人に寄添う「認とも」の有効性を伝えていければと思います。
- ・そして、当ほっとカフェの活動が更に理解され浸透し、地域単位での認知症カフェの設置拡大や認知症になっても安全安心なまちづくりに寄与していく事を伝えていければと思います

今後の展開

- ・毎日運営する認知症カフェをベースに、家族相談会、介護者の集い、認知症ご本人の集いの3本の矢+「認とも」で学んだ認知症ご本人に更に寄添う事として、2021年度に認可を受けた①認知症ご本人への月1回の電話作戦(おたっしゅコール)②オンライン介護者(特に子供世代)の集いを充実強化して、認知症ご本人の早期発見・進行予防を図っていければと考えています
- ・又、一昨年4月に、医療法人と介護事業者との3者協働での「久留米認知症カフェを広める会」を発足させ、昨年10月には「いっしょにつくろう認知症カフェ」セミナーを開催し、仙台の矢吹知之先生の協力を頂き、認知症カフェの運営者の掘起しを行い、11月からの人財育成研修を6回にわたり開催して、2021年度は久留米市より人財育成研修の委託事業の依頼を受けました。更なる住民型認知症カフェの地域単位での設置拡大を目指していきたいと考えています

☆補足

貴団体の助成のお陰で、6年間ここまで活動が充実し、先駆的革新的効果的な活動を進めていく事ができて改めて深く感謝しています

2025年問題、医療費・介護費の削減、認知症になっても安全安心なまちづくりを目指しています
今後ともご指導ご支援を宜しくお願い致します